かたりべ 94

豊島区立郷土資料館だより

「夕陽の立教大学」に描かれる構図とほぼ同じ構図で撮影した現在の立教大学

小熊秀雄「夕陽の立教大学」（豊島区所蔵）
本作品は、第４回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館（東京芸術劇場５階展示ギャラリー、７/25～７/29）にてご覧いただけます

「夕陽の立教大学」と小熊秀雄

北海道小樽生まれで、詩人として、また画家として活躍した小熊秀雄《一九〇一（明治三四）年～四〇（昭和一五）年》は、一九二八（昭和三）年の三度目の上京以降、現在の豊島区西池袋四丁目から長崎・千早地域あたりを転々と住まいをかえて生活していました。そして、一九三〇年代半ばに画家寺田政明と知り合って以降、北海道時代に行っていた絵画の制作を再開します。

上に示した「夕陽の立教大学」〈一九三五年、油彩、カンバス〉は、寺田と知り合った頃の制作と考えられています。立教大学の現タッカーホールあたりから、夕陽に染まるチャペル（礼拝堂）と本館（一号館・モリス館）を描いた、朱色の絵具の使い方が特徴的な作品です。長崎・千早界隈に居住した芸術家の足跡を辿っている本田晴彦氏は、この作品について、「手前の地面の印象的な広がりは、風景を俯瞰した構図から生まれており、当時あったテニスコートの審判台の上からの視点と考えれば納得できる。」と述べています。

この作品の旧蔵者であった寺田政明は、小熊たちと池袋の街へコーヒーや泡盛を飲みに繰り出す際、大学の裏門を通り抜けて近道をしたとしています。おそらく、現在の「学院南門」から大学構内に入り、「鈴懸の径」（プラタナスの並木道）を通って「正門」へ向かい、立教通りへ出たのでしょう。小熊は他にも大学構内のスケッチを数枚遺していますので、「夕陽の立教大学」という作品は、彼が日常的に目にしていた風景を描いたものということになります。

現在の千川駅・要町駅付近から池袋界隈にかけて展開していた芸術家たちの交流の場を、フランスのパリ南部に位置し芸術の中心地であったモンパルナスになぞらえて、「池袋モンパルナス」と名づけた小熊秀雄は、この作品を描いた五年後の一九四〇年一一月二〇日、肺結核により三九歳の若さでこの世を去ります。

（秋山）

館蔵資料のデータベース化（1）

「どんな資料があるか知りたい」に答えるために

パソコン画面で、郷土資料館にある資料を見たり調べたりすることができれば、楽しみが広がります。今、当館では、この夢のようなことの実現にむけて作業を進めています。ここでは、その作業の様子と、試行錯誤しながら資料の保管場所を考えながら行なっている苦戦の一端を紹介します。

■資料はどこに

郷土の歴史を伝える当館の資料の多くは、千早四丁目の旧第十中学校におかれています。資料は、本館収蔵庫にもありますが、勤労福祉会館の七階だけでは資料を整理するための作業場所・保管場所として手狭だからです。本年二月から始まった館蔵資料のデータベース化は、資料をより多くの人に公開することが目的ですが、そのための作業は、博物館の資料の取り扱いと整理を多く経験し、専門的知識を持った資料調査整理員によって進められています。

これまで、当館の資料は区内の各所に分散して収蔵していました。それを、旧第十中学校に集積することになりました。この資料の移動と集中については、『かたりべ』でこれまで何度か紹介してきましたので、おわかりいただける方もおられることでしょう。

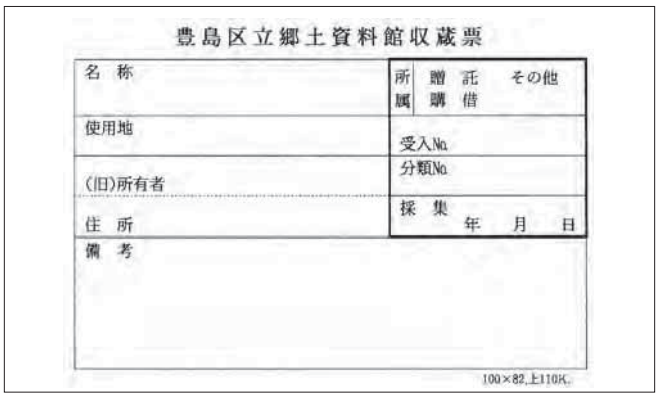
■資料としての記録と保存

資料の収集は、開館した一九八四年にすでに始まり、現在に至るまでおこなわれています。保管してすでに二十年以上を経過した資料もあれば、つい一ヶ月前に当館へ仲間入りした資料もあります。資料ひとつひとつに関して、いつ、どこで、どのような人が、何のために使ったものか、作ったものか、材質はなにか、道具などに何かを意味することばや記号などが書かれていないか、といったことを、様式の決まった「調査カード」に記録してきました。このカードに見取り図を記したり、写真を添付したり……いわば、資料の戸籍・履歴書を作ってきました。資料には、当館の資料になった順番に番号をついた名札がついています。

今、その名札の番号と「調査カード」が一致し、誤りがないか、まず、それらと資料の照合をしているところです。そして、新しい収蔵場所となった旧第十中学校の、どの場所（旧教室）のどの棚に保管すべきか、といった作業をしています。収蔵庫としての設備が充実している場所ではありませんが、みんなで知恵を出し合い、日々、こつこつと作業に励んでいます。作業に時間はかかりますが、これをなし終えてこそ、展示のとき、また、学校での学習のときに資料として使うことができます。このことによって、あの資料が見たいといったときに、容易に見られるようになるのです。

まだまだ始まったばかりですが、区民の共有財産を未来に伝えるための大事な作業だと思います。

（福岡）



豊島区立郷土資料館収蔵票

名称	所属 贈託 購借 その他
使用地	受入No.
(旧)所有者	分類No.
住所	採集 年 月 日
備考	

100×82,上110K.

それぞれの資料には、「豊島区立郷土資料館収蔵票」をつけます。資料の名称・使用地、資料の受入No.等を記入します。

「調査カード」には、資料のさまざまなデータを記録します。資料と収蔵票と「調査カード」の３点がそろっているか確認します。

衣類は、風を通しブラシをかけて収納

豊島をさぐる〈17〉　豊島区の特産物（その1）　「駒込茄子（こまごめなす）」のナゾに迫る

■「駒込茄子」とは

江戸の名物として知られた「駒込茄子」ですが、その実態についてはよくわかっていません。文政一一（一八二八）年完成の地誌『新編武蔵風土記稿（しんぺんむさしふどきこう）』に、「茄子　駒込辺より産する物味美なり。其内形殊に大にして他品に異なるあり。夫等を駒込土物店といへる市場に持出て鬻（ひさ）けり。されば駒込茄子と称して賞味せり。」とあり、駒込辺でとれた茄子は味がよく、その中で特大のものを「駒込茄子」と呼んで賞味したようです。歌川国芳（うたがわくによし）の「江戸じまん名物くらべ　こま込のなす」（図①）には大きな丸い茄子が描かれていますが、平野恵氏の調査によって「其大サ、方七八寸ニ至ル物、駒込ノ産ニシテ最ヲモンズ。駒込茄子ト云。」（『梅園草木実譜』）の新資料が紹介され、二一～二五センチ前後の大きさであることが判明しました（平野恵「駒込茄子再考」『博物館で見る―ぶんきょう食の文化展―』文京ふるさと歴史館、二〇〇八年）。

図①　神奈川県立歴史博物館所蔵

■産地は文京区？

図①の浮世絵の左上「こま絵」には、富士神社（文京区）の鳥居が描かれています。

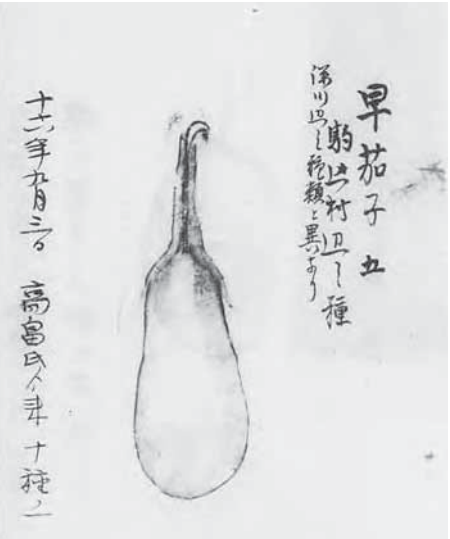
また明治一〇（一八七七）年の第一回内国勧業博覧会に、下駒込村（文京区）の丸林傳右衛門が「大茄子」を出品しています。収穫は七月下旬～八月で「其形大ニシテ恰モ南瓜ノ小ナルカ如キヲ以テ之ヲ賞ス」とあることから、「駒込茄子」の産地は文京区域であったと思われます。

その栽培法の記述に「茄子ハ高燥ノ地ヲ好ム。然レトモ此種ハ尋常ノ種ニ異ナリ、高燥ノ地ヘ植レハ其実大ニナルヲ得ス。故ニ卑湿ノ地ヲ撰ンテ植ウル、サレトモ元来湿気ヲ厭フノ質アルヲ以テ、成長シ未タ若干（ソコハク）ノ花実ヲ結ハスシテ枯凋（カレしぼむ）スル事アリ、之ヲ防クノ法ナシ。」（『東京府下農事要覧』）とあり、乾燥地を好む茄子を湿地で栽培するため、栽培が難しい品種であったことがわかります。つまり「駒込茄子」は収穫量が少ないため、その希少価値から珍重されたのではないかと考えられます。

一方、豊島区の場合、『新編武蔵風土記稿』に、上駒込村（豊島区）は「此辺薄土なれは樹木に宜く穀物に宜からず、ただ茄子土地に宜を以、世にも駒込茄子と称す。」とあり、豊島区域も茄子の産地だったことがわかります。しかし、明治初年の物産統計では上駒込村で茄子は生産されておらず、おそらく園芸業に専業化していったものと思われます（『東京府志料』『東京府村誌』）。

■駒込の「早茄子」

博物学者の田中芳男（よしお）が編纂した『物産雑説』乙二に、明治一六（一八八三）年九月三日に高畠眉山から持ち込まれた茄子一〇種の拓本が収録されています。そこに「早茄子　駒込村辺之種　深川辺の種類と異なり」とあり、長さ約一二センチで、細長い早生種の茄子が駒込で栽培されていたことがわかります（図②）。「駒込茄子」以外の品種が栽培されていたことがわかる貴重な資料といえます。



図②　東京大学総合図書館所蔵

実は、豊島区では、池袋、雑司が谷、高田、長崎地域が茄子の特産地だったのです。どのような茄子だったのでしょうか。次回で詳しくご紹介します。（横山）

2009年度郷土資料館事業予定（2009年4月～2010年3月）

展　示	春の収蔵資料展 内容：花見の名所、ちょっとむかしの家電製品、くみひも、学童疎開ほか	4月1日～5月24日
	夏の収蔵資料展＆第4回新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館協力展示 内容：アトリエ村に住んでいた画家たちが描いた風景画など	7月4日～10月4日
	企画展「（仮称）トキワ荘のヒーローたち～漫画にかけた青春～」 内容：トキワ荘に集った若き漫画家たちの青春と、戦後の漫画文化を、振り返る。会期中に記念講演会を予定	10月24日～12月6日
	冬の収蔵資料展 内容：ちょっとむかしの家電製品ほか	2010年1月14日～3月31日
刊行物	郷土資料館だより「かたりべ」94号～97号	6月、9月、12月3月刊行予定
	企画展図録「(仮称)トキワ荘のヒーローたち」	10月刊行予定
	豊島区立郷土資料館調査報告書第21集「豊島の集団学童疎開資料集（10）」	2010年2月刊行予定
	研究紀要「生活と文化」第19号付・2008年度年報	2010年3月刊行予定
臨時休館	燻蒸および展示替えに伴う休館	6月25日～7月3日
	展示替えに伴う休館	10月5日～10月23日
	展示替えに伴う休館	12月7日～12月17日
	年末年始の休館	12月28日～1月4日

※都合により事業内容や日程が変更する場合があります。
※事業の詳細は、『広報としま』または当館のホームページで随時お知らせします。
※今年度は、当館収蔵資料のデータベース化事業による作業スペース確保のため、常設展示室のみの開館日があります。あらかじめご了承願います。

『豊島区地域地図　第７集　近世〈村絵図II〉編』

現在販売中です。江戸時代に作成された池袋村・巣鴨村の村絵図（複製）と、読みおこし図、解題を収めています。当館にて、見本をご覧いただいた上でお買い求めください（¥1,200）。

編集後記

ついこの前、除夜の鐘を聞いたと思ったら、早くも一年の半分が過ぎようとしています。「いったい、どういうこと…？」と思ってしまうのは、編集子だけでしょうか。

二〇〇五年六月発刊の『かたりべ78号』以来、しばらくの間休載していた学芸ブロによる「資料館の法則」が、なんと約四年ぶりに復活です。休載中には、あの〝シュールな笑い〟を復活させて欲しいという来館者からの声や、近隣博物館の学芸員仲間からの温かいエールも得て、複数の支持者が存在することを改めて確認しました。これから先も博物館をとりまく様々な「法則」を表現していきたいと思います。（あき）

かたりべ
No.94
・
2009年６月15日
・
豊島区立郷土資料館
・
東京都豊島区西池袋２-37-４
豊島区立勤労福祉会館７階
・
電話 03-3980-2351
URL：http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/